

コロナに負けずに今日も元気だ!



月刊

ARCO新聞

2月1日(月)
第1号

3つの顔を持つ!? 出町座の魅力

「出町座」は、同志社大学今出川キャンパスから徒歩十五分ほどの出町櫛形商店街のなかに位置するミニシアターである。館内には、映画館のみならず、カフェ「出町座のソコ」や書店「C A V A B O O K S (サヴァ・ブックス)」も併設されている。カフェでは映画館内に持ち込めるドリンクや軽食が提供され、書店では映画関連の書籍が多く扱

われるなど、三つの施設が繋がりをもって共存している。出町座について、支配人である田中誠一さんは次のように話す。「映画館だけだと、映画を見にくる人しか来ない。カフェだけだと食事をしにくる人しか来ない。そういうことよりも間口が広い方がいい。用事がなくても来てもらえるような場所になればいいと思うている」



出町櫛形商店街とは?

出町櫛形(でまちますがた)商店街とは、同志社大学今出川キャンパスから東へ徒歩十五分の場所に位置する京都でも有数の規模を誇る商店街である。映画館から食料品店、日用雑貨店、和菓子屋、本屋など実に多種多様なお店が並んでおり、地域の方だけでなく、観光客も多く訪れるスポットとなっている。京都アニメーション制作のアニメ「たまこまーけつ」と「の舞台にもなっており、いわゆる聖地巡礼スポットとしても有名である。商店街入口にはアニメのキャラクターを模した飛び出し坊やが置いてあるなどファンにはうれしいサプライズが待っている。まだ行ったことがない人は、ぜひ足を運んでみてほしい。

商店街の一員として

以前まで、田中支配人は、「日本映画原点の地」とされる元・立誠小学校で「立誠シネマプロジェクト」と題し、活動されていた。しかし、二〇一七年に元・立誠小学校から現在の出町座に移転し、事業を継続されている。出町櫛形商店街という元からある商店街に新しく施設を作るということについて、田中支配人は、「もともとある商店街に入らせてもらうので、商店街にとって何がいいのかということが大事だと思っている。商店街の利点をもらうだけでなく、商店街にどのような貢献できるのかというように気を付けている。」と話す。

また、出町櫛形商店街を移転先に選んで良かった点については、出町座が出町櫛形商店街という人が集まる場所にあることで、「お客さんが出町座だけでなく、商店街の他のお店も利用しているというところ」だという。私たちARCOも実際に、出町櫛形商店街に足を運び、出町座は、映画館、カフェ、書店が一体となったカルチャースペースであるだけでなく、様々なお店が連なる商店街の中にあるからこそ、「何か面白いものがあるんじゃないか」というワクワク感が感じられる場所となっているように感じた。

コロナ禍を 共に乗り越える

出町座は、新型コロナウイルスの流行による休業に伴い休業明けに出町座で使える先売り券として「出町座未来券」の発行を四月から行っていた。発売を決めた当時を振り返って、田中支配人は「やったことがないことだから失敗するかもしれないと思ったが、失敗したら、しないでよかった。い。何もなかったら無くなっていくだけ。」と話す。

出町座未来券は、クラウドファンディングと呼ばれる、不特定多数の人が主にインターネット経由で「応援したい」と思った、他の人や組織に資金を募る仕組みを活用したものだ。

田中支配人は、このクラウドファンディングを活用して分かったこととして、「コミュニケーションツールの一つでもある」ということを挙げる。

「お店を開いていたら、毎日お客さんと会って顔を見ることで分かっていないと、お店を開いてしまおう。ところが、クラウドファンディングを行うことで、向こうのことが分かるようになる。こういう状況かお互いに確認し合える。」田中支配人はこのように話す。

今、学生に伝えたいこと

最後に、田中支配人から学生みなさんに向けてメッセージをいただいた。

「このコロナ禍では、我慢することもある。たくさんあって身体的にも精神的にも大変だと思う。みんながどう過ごしているのか、息抜きはできているのか考えている。このコロナ禍では、とにかく今の状況を冷静にみつめてたくさん考えるしかない。そのためには、心身ともに健康であることも大切で、健康だからこそ見えてくることもあるのではないかなと思うている。」

田中支配人がおっしゃるように、いま改めて自分のいる状況や社会について考えを深めてみてはどうだろうか。そして、息抜きに出町座へ赴いてみると、新たな出会いや発見があるかもしれない。

ARCOより

新型コロナウイルスの蔓延により、非日常が日常になりました。同志社大学ボランティア支援室の学生スタッフが、地域やボランティアの魅力を発信し続けています。私たちARCOもオンラインで活動をおこなう機会が増えてきています。

それでも、地域と学生をつなげる「同志社つながる@カフェ」、ZOOMを使って学生にボランティアの魅力や地域を取材して発信する「ARCO新聞」、普段の活動や最新の地域・ボランティア情報などを投稿するSNS、これら4つの活動を軸として、役目を果たす。果たそうと日々励んで参ります。地域やボランティアの魅力を広めるために、これからもARCOの活動を続けて参ります。お願いいたします。

お問い合わせ

同志社大学ボランティア支援室(今出川)

開室時間:

平日9:00~11:30 12:30~17:00

ji-volun@mail.doshisha.ac.jp

TEL:075-251-3236

ARCO (今出川) Twitter→

第19回 同志社つながる@カフェ

今だから伝えたい

出町桝形商店街の魅力と力

<ゲストスピーカー>

鋸屋慎三(おがやしんぞう)さん
(桝形事業協同組合 理事長)

<日時>

2021年2月23日(火・祝)

14:00~15:40

<場所>

Zoom(オンライン)

@カフェの最新情報は
ARCOのTwitterまで↓



※イベント詳細はボランティア支援室のHPまで↑

要申し込み

今回の@カフェでは同志社大学生にとって最も身近な商店街「出町桝形商店街」の理事長である鋸屋慎三さんにお話を伺います。出町桝形商店街にあるおすすめスポットなどの紹介もあります!

”こんなときだからこそ” 周辺地域の魅力に触れてみませんか?